



新型コロナウイルス(Novel Coronavirus : nCoV) 関連肺炎(武漢肺炎)について



～家族や大切な人を守るため、出来る事から始めよう！～

医療法人社団 秀皓会 理事長 船本 全信

今年、暖冬の影響か、本来流行するはずのインフルエンザが流行せず、その代わりに中国発の原因不明の肺炎の話が飛び込んできました。その後の報告では、2019年12月以降、中国湖北省武漢市に多発した新型コロナウイルス感染症(武漢肺炎)であることが明らかにされました。このウイルスは、バンコク、東京、韓国、中国全土、台湾、東南アジア、米国ワシントン州等、全世界に広がっております。中国当局が、正確な情報を明らかにしていませんが、武漢では数万～10万人単位での感染者に上るとみられています。ただ、死亡者は中国に限定的で、今のところ致死率は3%程度とされています。1月30日現在、奈良と大阪で「国内での新規」感染者が報告されています。重症化するのには、肺や心臓が悪い・悪性腫瘍等で免疫力の低下した場合に多いと推測されますが、ウイルスもどんどん変異するので、先行き不透明です。

「2週間以内」程度の潜伏期の後に、感冒様症状で発症し「10日」以上経過しても改善無く、次第に呼吸困難等の肺炎症状を来すのが武漢肺炎です。全員が肺炎を来すわけではなく、安静により軽症のまま治る患者も多いので、呼吸困難になったら病院受診と考えると良いと思います。現在のところ、特徴的な症状もなく、有効な検査法・治療法は全くありません。安静臥床で栄養を摂り、自分の抵抗力・免疫力で治すしかありません。

ところで、コロナウイルスとは、いったいどんなウイルスなのでしょう？一本鎖(+)RNAウイルスのニドウイルス目のコロナウイルス科のウイルスで、コロナウイルス亜科とトロウイルス亜科を含みます。更にコロナウイルス亜科は α 、 β 、 γ 、 δ の4属に分類され、普通の風邪の原因となるヒトコロナウイルスはアルファやベータ属に属しており、特別なウイルスではありません。ただし、以前に問題となった重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)、そして今回の武漢肺炎の原因の新型ウイルス(2019-nCoV)はベータ属に属します。元々はコウモリなどの野生動物が感染源ですが、中国はそれらの食習慣があるため、何らかのウイルス変異を来し、ヒトからヒトへと感染するようになったと考えます。感染経路は、飛沫と接触感染が主たる経路とされています。現在のところ有効な治療薬は発見されてはおらず、AIDSやインフルエンザ薬といった抗ウイルス薬の効果が期待されていますが、効果のほどは不明です。心配なのは、この様に伝染経路がコウモリから(ヘビを介して)ヒト、ヒトからヒトへと変化する事に加え、鳥インフルエンザの様に「強」毒性に変異しないか、今後もさらに追跡調査が必要です。こういったことから、「まずは罹らないこと」が大切で、当面は一般的な手洗い・ウガイ・栄養・休養で対応し、不要不急の外出を避けるしかありません。

ここからは、今できる実際の対応について説明します。

1. 手洗い・アルコール消毒—手に着いたウイルスを除去するのが目的です。外出から帰ったら、丁寧に石ケンで手洗いを。家にいる間は、それほどする必要は無いです。手洗いできる環境にない時は、アルコール消毒液1プッシュをしっかりとって手に擦り込んでください。効果は、手洗いの方が上です。手荒れの気になる方は、後でワセリンを塗り込んで下さい。
2. うがい—咽頭粘膜についたウイルス・雑菌を、「物理的」に洗い流すのが目的ですので、イソ○ンやア○ノール等のうがい薬は、喉を痛めるのでかえって不要です。その時出来ればついでに、さっと顔も洗ってください。

(裏面へ続く→)

3. マスク着用—マスクの利点はただ一点、ウィルスがふんだんに詰まった「飛沫」を防御することです。咳くしゃみで飛沫を飛ばさないように、飛沫を吸い込まないように鼻もしっかりと覆って下さい。さらには、メガネ・ゴーグルで眼からの侵入もブロックした方がベターです。マスク表面はウィルスだらけです。素手で触らないように！一旦外したマスクは廃棄を！
4. 次亜塩素酸ナトリウム水—前述の MERS ウィルスには効果的でしたので、今回の武漢肺炎ウィルスにも効果はあると考えられます。原液の 500 p p m 溶液は、ネットで購入できますので、それを 5 倍希釈 (100 p p m) に薄めてスプレー式噴霧器を使って、ドアノブや汚染空間を除菌しましょう。なければ、市販のハイター(漂白剤)でも OK です。ちなみに、胃腸炎の原因のノロ・ロタウィルスの汚物処理には原液をういりますが、それ以外は用いないでください。強度の手荒れ・肌荒れの原因になります。

危機意識を強く持ってもらうため、これからあえて厳しいことを言うことをお許しください。当たり前のことですが、普段からしっかりと体調管理に心がけて下さい。安静で治るインフルエンザ・感冒と、現在治療法・検査法が無く致死率も不明な新型ウィルスとどちらが危険でしょうか？この時期、インフルエンザや風邪なら、市販薬を飲んで(なくても OK) 自宅療養していれば、1 週間以内には治癒します。万が一、阪神間で流行の兆しがあった時、安静療養でも 10 日以上治らず呼吸困難を来して「武漢肺炎が疑わしい」場合の対応を述べます。すぐに手近な病院・診療所に行かないでください。まずは保健所や病院(または厚生労働省コールセンター 03-3595-2285)に電話して、「どこなら対応可能か」確認しましょう。藁をもすがる行動だとは思いますが、武漢肺炎であった場合、対応できない病院・診療所にいってしまうと、治療して貰えない(元々治療法がない!)上に感染者を増やすリスクに繋がります。感染者が増えると、致死性の高い変異も来たしやすくなります。「より致死性の高い」ウィルスのパンデミックとなれば、当然の如く学校・会社・デパート・スーパーなども閉鎖、自宅待機となるでしょう。当院も、患者やスタッフの安全を守るため臨時休業すると思います。そして、病院や何処かの体育館等で、他の医師・看護師・薬剤師・検査技師の方々と、例の真っ白なガウンを羽織って悪戦苦闘していることでしょう。兎に角、「君子危うきに近寄らず」です。こういった未知の病気の場合、「映画やコンビニに行くだけだよ、まさか大丈夫だろう」といった楽観論はダメです。大事なものは、新型ウィルスを「貰いに行かない」「持ち込まない」意識です。状況次第ですが、せめてGW明けまで、注意して事の成り行きを見守って下さい。最悪の事態、物流・インフラが止まる可能性も考えて、できれば自宅に、水や食料・燃料の備蓄をお願いします。「備えあれば憂いなし」「最悪を考えて、最善を尽くす」です。時間を稼ぐことです。時間があれば、病態の解明、ワクチン・治療薬の開発(半年以上は必要)が出来ます。事態の速やかな収束を、この懸念が杞憂とならんことを心より願っています。

【ふなもとクリニック エコー検査予定】

2月の予定

井上先生 8(土)午前/午後・29(土)午前/午後
 杉山先生 7(金)・14(金)・21(金)・28(金)
 池田先生 18(火)
 山本先生 13(土)午前/午後・22(土)午前/午後

3月の予定

井上先生 未定
 杉山先生 6(金)・13(金)・27(金)
 池田先生 10(火)・24(火)
 山本先生 未定



- ◆ふなもとクリニック 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 7-13 tel. 0798-81-1192
- ◆ふじもとクリニック 〒663-8165 西宮市久保町 7-35 レインボー酒蔵通 1F tel. 0798-42-7692
- ◆居宅介護支援事業所 **ふくろう** 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 6-20
 デイサービスセンター tel. 0798-40-9500(代表) 0798-49-7670(デイ直通)